

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。

今回は北区の有野町東二郎下とそこで頑張っている若手農家の温井哲也さんをご紹介します。

有野町東二郎下

有野川が集落を南北に貫き、東側は低い山を至て西宮市山口町・名来集落及び道場町平田集落と接し、北側は道場町日下部集落、西側は八多町中集落と南側は有野町東二郎上集落と接しています。有野におけるいちご栽培は、「二郎いちご」として北神観光農業の拠点となっています。「二郎いちご」は大正末期に試験栽培され、いちご狩りは、昭和27年頃に始まっています。いちご狩り以外では、ジャム工場やいちごの直売所もあります。

〇がんばる若手農業者（温井 哲也（てつや）さん）

1. 温井さんは、病院関係に勤められていましたが、9年前に退職されて農業を始められ、いちご農家の5代目となりました。

主に、いちご（あきひめ）をビニールハウス7棟（10a）と露地（10a）で栽培されています。他には、水稻80a、野菜4aを栽培されています。生産されたいちごは、直売所等での販売や観光いちご狩りを行い、多くの方に農業へ少しでも興味を持ってもらえるよう頑張っておられます。

2. 農業をやっていて、大変なことは、いちごの苗作りは1年以上かかるため、苗作りをしながら、収穫や販売、観光いちご狩りなど、多様な作業をすることです。

3. 逆に、よかったことは、いちご狩りに来られたお客さんがいちごを食べて「おいしかった」と生の喜んだ声を聞くと大変励みになるそうです。

4. 今後、目指すべき農業は、作業・品質・収益性を考えて、いちごの高設栽培の導入を考えていると熱く語られる温井さんの姿はやる気に満ちていました。



温井さんのイチゴハウス



布袋寺

平教経の子孫である宮崎弾正二郎広綱の開基と伝えられ、大永年間（1521～28）に教経の念持仏である聖観音像を祀るため、かつての領域であったこの地を開拓し二郎と名づけこの寺を建立したとあります。寺には清盛の肖像画と伝えられる肖像画・琵琶塚碑面文字の屏風・清盛塚移転時に出土したといわれる経石2個があり、兵庫区磯之町の平家の子孫といわれる宮崎氏分家より寄進されたものです。

大歳神社

宮崎広綱が大永年間（1521～1528）にこの地を開拓中、有間神社（現・北区有野町有野鎮座）から末社を貰い受け、神社を創設したと伝わっています。現在、近畿自動車道名古屋神戸線（第二名神）建設に伴い、平成26年8月28日この地に遷座しました。祭神である神武天皇は、明治24年に近くでお祀りされていた神武天皇社を合祀したものです。



布袋寺



大歳神社